

提携がここにも実を結んでいます。GMの触媒方式採用 ISUZU浄化システム。

I-CAS ISUZU CLEAN AIR SYSTEM

2次空気供給装置やEGR(排気ガス再循環装置)など、数々の低公害システムを開発してきたGMが、邦貨にして1,500億円の巨費を投じ4,000人の専任エンジニアにより4年間フルタイムで研究・完成させたのが酸化触媒方式です。ISUZUの排出ガス浄化システムは、この触媒方式を採用。性能、経済性、信頼性、耐久性などを追求しながら排出ガスの浄化に適合。ムダ、ムリのないきわめて合理的で信頼性の高いシステムです。

酸化触媒コンバーター

排気ガス中のCO、HCを触媒の化学反応により無害なH₂O(水蒸気)とCO₂(炭酸ガス)に変えます。コンバーターは大容量で浄化効率がよく、面積あたりの熱上昇が少ないことから熱害の点も充分に対応できます。

また触媒の耐久性もよく、一度封入された触媒粒(ペレット)は長い間、高い浄化能力を維持します。

EGR(排気ガス再循環装置)
エンジンの吸入混合気に一部を再循環させ、シリコン燃焼温度を下げてNOxのえます。

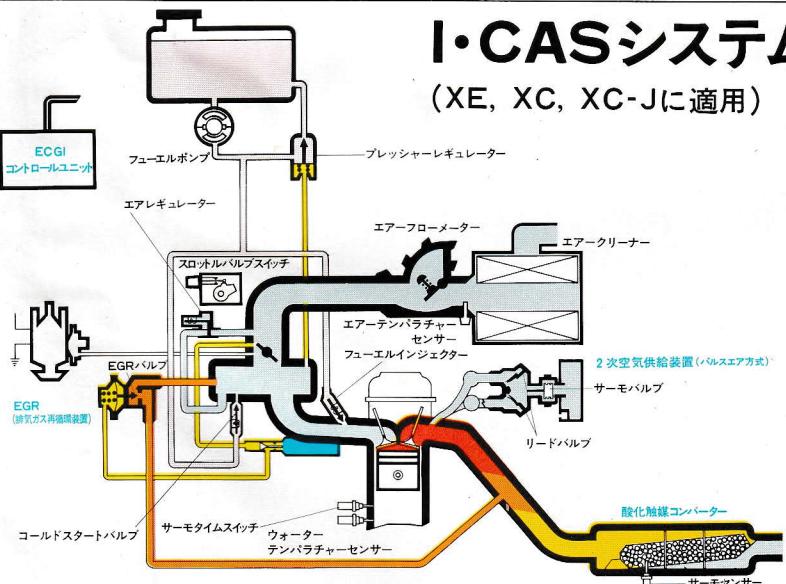
2次空気供給装置

シリンダーへッドの排気を次空気を送り、排気ポートのマニホールド中で排気COを再燃焼させます。酸化バーテーでの反応に必要な給して浄化を促す働きもあります。

ECGI(電子制御燃料噴射装置)

ISUZUがわが国で初めて搭載した方式です。小型ターナにより、エンジンのあに応じて最適の燃料を工給。完全燃焼を促す、高性能のシステムです。

I-CASシステム図 (XE, XC, XC-Jに適用)



アイ キヤス 88の特長をもつI-CAS

長寿命設計の酸化触媒コンバーター

世界で初めてGMが開発した酸化触媒コンバーターは、化学反応のはやさと耐久性を第一に設計されています。

ですから、ISUZUの酸化触媒コンバーターはEPA(米国環境保護庁)の8万km耐久テストに合格したものと同じものを採用しており大容量で浄化効率がよく一度封入された触媒粒(ペレット)

は長い間、高い浄化能力を維持します。

また、面積あたりの熱上昇が少なく、熱害にも充分対応しています。

I-CASの特長は8つのバランス設計です。

- ①耐久性 ②信頼性 ③合理性
- ④経済性 ⑤走行性能 ⑥安全性
- ⑦整備性 ⑧国際性

装備	XE	XC	XC-J	XT
車型	●	○	○	○
1800XE	○	○	○	○
1800XC	○	○	○	○
1800XC-J	○	○	○	○
1800XT	○	○	○	○